

専任教員応募用履歴書

No. 1

※年号はすべて西暦でご記入ください

(2011年7月1日現在)

フリガナ	ワセダ	タロウ	性別	外国人教員の 翻訳者署名
英字氏名	WASEDA	Taro	男	
氏名	姓 早稲田	名 太郎	早稲田 男	写真貼付 4 cm×3 cm
生年月日	1972年9月21日 37歳	国籍	日本	
現住所	フリガナ シンジュクニシセガ 〒169-0051 新宿区西早稲田1-1-1			TEL 03(3203)4141 携帯TEL 090(0123)4567
e-mail	taro@xxxxx.jp			

学 歴 [高等学校入学以降を記入し(入学・編入学)(卒業・修了・退学)等を区分してください]			
1988年4月1日	早稲田大学 高等学院	入学	
1991年3月31日		卒業・修了・退学	
1991年4月1日	早稲田大学 理工学部 専修	機械工学科 入学・編入学	
1995年3月15日		卒業・修了・退学	
年 月 日		入学・編入学	
年 月 日		卒業・修了・退学	
1995年4月1日	修士課程に該当する学歴(新制大学院修士課程・前期課程)		入学・編入学
1997年3月15日	早稲田大学大学院理工学研究科 電気工学 専攻	修了・退学	
1997年4月1日	博士後期課程に該当する学歴(博士課程・後期課程)		入学・編入学
2000年3月15日	早稲田大学大学院理工学研究科 電気工学 専攻	修了・退学(満期・中途)・在学中	
博 士 学 位	取得学位名(課程・論文) 博 士 (工 学)	受領大学 早 稲 田 大 学	受領年月日 2000年3月15日

職 歴 [職歴異動の場合は入社・退社、および資格等を記入してください]		
開始(就職)年月日 2000年4月1日～	株式会社製作所 中央研究所研究員	終了(退職)年月日 ～ 2005年3月31日
2002年4月1日～	△△△工業大学 工学部 非常勤講師	～ 2004年3月31日
2005年4月1日～	株式会社製作所 中央研究所主任研究員	～ 2006年8月21日
2006年4月1日～	○△□大学 理工学部 非常勤講師(現在に至る)	～ 年 月 日
2006年8月22日～	株式会社製作所 基礎研究所主任研究員	～ 2007年3月31日
2007年4月1日～	□□□大学工学部 専任講師	～ 2009年3月31日
現 職 2009年4月1日～	□□□大学工学部 准教授	現在に至る (2012.3.31退職予定)

専攻分野 [別紙より選択]	電子・電気材料工学
---------------	-----------

研究分野 [詳しく記入]	電子工学、技術ジャーナリズム、技術経営
--------------	---------------------

氏名 早稲田 太郎

教 育 研 究 業 績

[Ⅰ教育活動(1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)2.作成した教科書、教材、参考書 3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 4.その他教育活動上特記すべき事項)、Ⅱ研究活動(1.著書 2.修士論文・博士論文・論文 3.学会発表 4.文部科学省科研費/公的資金による研究課題(研究代表者) 5.その他研究活動上特記すべき事項)、Ⅲ学会等および社会における主な活動、の順に記入してください]

修士論文・博士論文・ 著書・論文・学会発表・ 科研費採択課題等の別	題 名 等	発行又は 発表年月	発行又は 発表箇所	掲載誌名等
Ⅰ 教育活動				
1. 教育内容・方法の工夫	講義「〇〇〇」実施にあたり、現実問題に近い題材により、実践的な教育を達成。	2005. 4 より	〇〇大学	
	講義「〇〇」および講義「〇〇」〇〇の手法を演習で適用することにより実践的ノウハウの教育を達成	2006. 8 より	〇〇大学大学院	
	講義「〇〇」および講義「〇〇」において、オリジナルの教材を作成。	2003. 4 より	〇〇大学、 〇×大学院	
2. 作成した教科書	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	2004. 3	〇〇書店	
	〇〇〇〇〇〇〇〇〇 分担執筆(80~100 頁)	2005. 9	〇〇〇〇	
3. 教育方法・教育実践に関する発表	報告書「〇〇研究集録」	2002. 3	〇〇県教育委員会	
Ⅱ 研究活動				
1. 著書	△△△△△△△△△△△△△△△△	1995. 5	〇×出版	
(共著)	△△△△△△△(執筆担当部分のタイトル名 P100~P200 担当)	2000. 1	〇△書店	
2. 修士論文	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	1988. 3	早稲田大学	
博 士 論 文	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	1993. 1	早稲田大学	
論 文	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 早稲田太郎(筆頭)、大隈次郎、小隈花子	1994. 6	〇〇学会	〇〇〇〇誌
(共著)	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 P25~P30 担当 大隈次郎(筆頭)、小隈花子、早稲田太郎	1996. 9	〇〇社	〇〇〇〇〇
論 文	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	2003. 9	〇〇〇〇	〇〇〇〇〇
学 会 発 表 (国際学会)	□□□□□□□□□□□□□□□□	1997. 10	第 9 回電子材料学会	電子材料学会報告 No. 9
(査読付)	□□□□□□□□□□□□□□□□	1998. 10	第 12 回応物学会	応物学会論文誌 No. 12
	□□□□□□□□□□□□□□□□	2002. 10	△女子大学	
4. 文部科学省科研費	基盤研究 B : □□□□□□□□□□□□□□□□	98-2000 年度	□□大学	500 万円
経産省□□研究助成	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	00-03 年度	□□□大学	2, 000 万円
Ⅲ 学会等および社会における主な活動				
	〇×学会会員	1997. 1 から	〇×学会	
	〇〇学会副会長	98-2000 年度	〇〇学会	

※該当の無い項目は省略してください。

早稲田大学政治経済学術院

修士論文・博士論文・著書・論文・学会発表・科研費採択課題等の別	教 育 研 究 業 績 〔Ⅰ教育活動(1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)2.作成した教科書、教材、参考書3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等4.その他教育活動上特記すべき事項)、Ⅱ研究活動(1.著書2.修士論文・博士論文・論文3.学会発表4.文部科学省科研費/公的資金による研究課題(研究代表者)5.その他研究活動上特記すべき事項)、Ⅲ学会等および社会における主な活動、の順に記入してください〕
	Ⅰ 教育活動
1. 教育内容・方法の工夫	・講義「○○○」実施にあたり、現実問題に近い題材により、実践的な教育を達成。2005.4より ○○大学 ・講義「○○」および講義「○○」○○の手法を演習で適用することにより実践的/リハの教育を達成 2006.8より ○○大学大学院 ・講義「○○」および講義「○○」において、オリジナルの教材を作成。2003.4より ○○大学、○×大学院
2. 作成した教科書	・○○○○○○○○○○ 2004.3 ○○書店 ・○○○○○○○○○○ 分担執筆(80-100頁) 2005.9 ○○○○
3. 教育方法・教育実践に関する発表	・報告書「○○研究集録」 2002.3 ○○県教育委員会
	Ⅱ 研究活動
1. 著書	△△△△△△△△△△△△△△△△ 1995.5 ○×出版
(共著)	△△△△△△△△(執筆担当部分のタイトル名 P100～P200 担当) 2000.1 ○△書店
2. 修士論文	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 1988.3 早稲田大学
博士論文	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 1993.1 早稲田大学
論文	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 早稲田太郎(筆頭)、大隈次郎、小隈花子 1994.6 ○○学会 ○○○○誌
(共著)	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ P25～P30 担当 大隈次郎(筆頭)、小隈花子、早稲田太郎 1996.9 ○○社 ○○○○
論文	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 2003.9 ○○○○ ○○○○
学 会 発 表 (国際学会)	□□□□□□□□□□□□□□□□ 1997.10 第9回電子材料学会 電子材料学会報告 No.9
学 会 発 表 (査読付)	□□□□□□□□□□□□□□□□ 1998.10 第12回応物学会 応物学会論文誌 No.12
学 会 発 表	□□□□□□□□□□□□□□□□ 1998.10 △女子大学
4. 文部科学省科研費	基盤研究B：□□□□□□□□□□□□□□□□ 98-2000年度 □□大学 500万円
経産省□□研究助成	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ 00-03年度 □□□大学 2,000万円
	Ⅲ学会等および社会における主な活動
	○×学会会員 1997.1から ○×学会
	○○学会副会長 98-2000年度 ○○学会